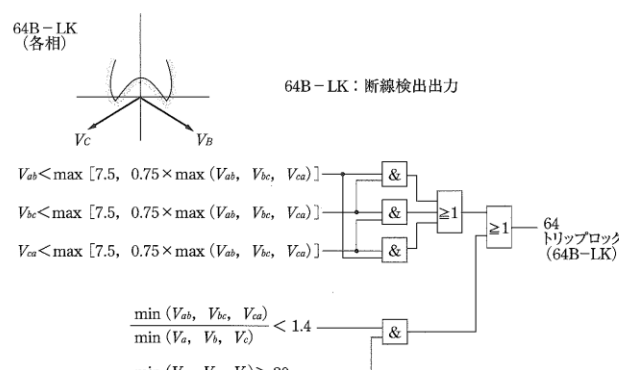
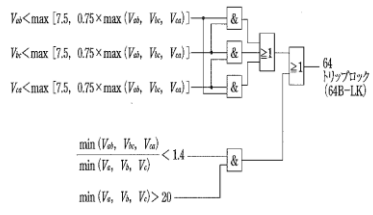


「保護リレーシステム工学」(4刷)正誤表

p.289	上から 5～6行目	誤	(3) 保護リレーの極性 主回路の電圧・電流の正方向は一般には(1)のとおりであるが、保護リレーの場合に
		正	(3) 保護リレーの極性 保護リレーの極性

p.291	上から 4～10行目 図14.20	誤	<p>(2) VT回路の断線・短絡・接地対策</p> <p>(a) 地絡過電圧リレーにおける対策 地絡過電圧リレーでは、その歯止めリレーとしてもやはり地絡過電圧リレーを選択せざるをえず、保護リレーの1不良に対しての歯止めの効果はあるが、VT不良においては、二つの地絡過電圧リレーがともに動作にいたるため、別の対策が必要となる。この対策の一つの例として、系統一次側の地絡事故とVTの二次側断線事故を弁別可能な機能を二つの地絡過電圧リレーの一つに実施する必要がある(図14.20)。</p>  <p style="text-align: center;">図 14.20</p>
		正	<p>(2) VT二次回路の接地・短絡・断線対策</p> <p>(a) デジタルリレー(距離リレー、地絡過電圧リレーなど)における対策 デジタルリレー(距離リレー、地絡過電圧リレーなど)においては、前項(iv)の対策を講じるほか、VT二次回路における接地や短絡等によるヒューズ断、および断線時の誤動作防止対策をより完全にするため、次の断線検出リレー(64B-LK)によるVT回路トラブル誤動作防止対策が講じられている。(図14.20 表14.6)</p>  <p style="text-align: center;">図 14.20</p>

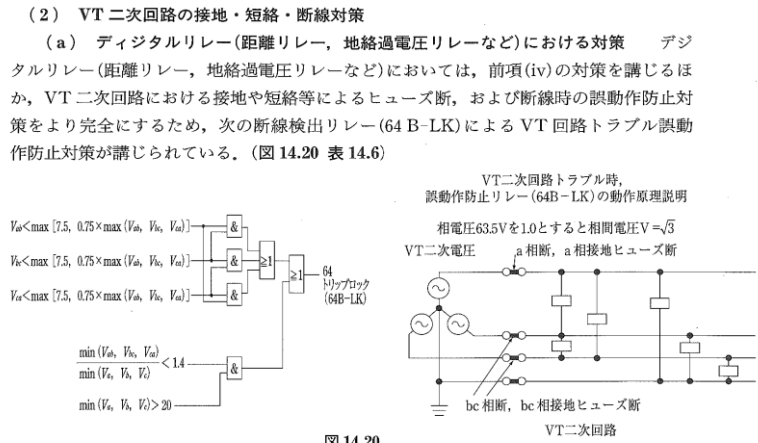


表 14.6 64B-LKのa相接地断線、bc相短絡断線時の検出ロジックと応動説明

断線時の各相電圧	電圧値	断線検出ロジックと断線時の応動
a相断線	$V_a = 0.2 \sim 0.5$ $V_b = 1.0$ $V_c = 1.0$ $V_{ab} = 0.4 \sim 0.8$ $V_{bc} = 1.73$ $V_{ca} = 0.4 \sim 0.8$	$\{ V_{ab} < 0.75 \max(V_{ab}, V_{bc}, V_{ca}) \}$ $\& \{ V_{ca} < 0.75 \max(V_{ab}, V_{bc}, V_{ca}) \}$ $= (0.8 < 0.75 \times 1.73) \& (0.8 < 0.75 \times 1.73)$ $= (0.8 < 1.3) \& (0.8 < 1.3) = (1) \& (1) = 1$ で検出 b相, c相断線も同様の該当相判別で検出
bc相断線	$V_a = 1.0$ $V_b = 0.4 \sim 0.8$ $V_c = 0.4 \sim 0.8$ $V_{ab} = 0.2 \sim 0.6$ $V_{bc} = 0 \sim 0.2$ $V_{ca} = 0.2 \sim 0.6$	$\{ \min(V_{ab}, V_{bc}, V_{ca}) / \min(V_a, V_b, V_c) < 1.4 \}$ $\& \{ \min(V_a, V_b, V_c) > (20 \text{ V} / 63.5 \text{ V}) \}$ $= \{ (0.2 / 0.4) < 1.4 \} \& \{ (0.4 > 0.32) \}$ $= (1) \& (1) = 1$ で検出 b相, c相断線も同様の該当相判別で検出

p.291 下から  
6～5行目

誤

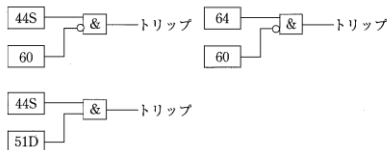
(b) 距離リレー，地絡過電圧リレーにおける対策 上記(iv)に示す対策が距離リレーに施設されるほか，VTが親子形，あるいは別のVTと電圧比較することができる場合は，距離リレー，過電圧リレーの歯止めリレーとして，電圧平衡リレーが使用される(図14.21)。

正

(b) 距離リレー，地絡過電圧リレーにおける対策 VTが親子形，あるいは別のVTと電圧比較することができる場合は，距離リレー，過電圧リレーの歯止めリレーとして，電圧平衡リレーが使用される(図14.21)。

図14.21

誤



正

